第100号
2009年9月1日発行

愛道

あいどう

テーマ「光」

Topics

- 「愛道」100号記念座談会
- 「愛道」と足羽福祉会の歩み

社会福祉法人 足羽福祉会　http://www.asuwafukushikai.jp

目次 contents

3　理事長ごあいさつ

特集

4　「愛道」100号記念座談会

参加者：滝波博純　理事長（法人本部）
矢納ともえ　園長（足羽東保育園）
北和史　課長（足羽学園）
中村隆海（足羽更生園）
平澤明　副主任（足羽ワークセンター）
林好美　課長（愛全園）
澤村学（愛全園）
岩本昌雄　苑長（足羽利生苑）
司　会：髙村昌裕　事務局長（法人本部）

6　「愛道」と足羽福祉会の歩み

8　各施設長ごあいさつ
9　平成20年度　決算報告
10　自慢の作品大集合
12　優しく感性豊かに……足羽東保育園
13　成長は光……足羽学園
14　太陽のもとで輝く笑顔……足羽更生園
15　光輝くまで……足羽ワークセンター
16　私、老人ホームやで。……愛全園
17　いろいろな光……足羽利生苑
18　みんなの広場
20　愛のささえ

「表紙について」

今も昔も看板娘！
あぁ…この笑顔に出会えてよかったぁ♪
いつも元気をありがとうございます。

（愛全園　澤村）

理事長ごあいさつ

思い

社会福祉法人足羽福祉会
理事長　滝波博純

この度、当法人の機関誌「愛道」が百号を迎えました。当初は足羽学園「学園便り」として始まり、昭和五十四年から現在の「愛道」に引き継がれ、今日に至っています。

年に三～四回の発行で三十有余年継続されてきました。私も途中からの奉職で最初のころの事は十五年記念誌を見たり、また、先輩の職員をはじめ、関係の方たちから聞いて知った事も多いのですが、改めて綴られた全号を見てみますと、大きな感動を覚えます。

利用者の方々や仲間の方たちの生活の様子、訓練への取り組みを通して成長していく喜びが伝わって来ますし、また、それをしっかり支え、進めた職員をはじめ、ご家族や地域の方やボランティアの方、および関係諸団体の協力と参加が多く述べられています。

そして、昭和五十年代後半に実施が続けられた「とばせ愛の風船～チャリティーバザー～」や「赤ちゃんからお年寄りまで」の福祉理念のもと、保育園・障害児者・高齢者と、順次、福祉施設の開設が進められたこと、また、全施設が一同に会して交流運動会や合同レクリエーションが始まり、現在も継続されていることなど、当法人と共に社会の歴史として、充分に理解できる貴重なものとなっています。歴史の記録であり、何よりも、その根底にある「人間愛」を強く感じます。

かかわるみんなが常に人の幸せを願い「共に生き、共に集う、光を求めて」の信念で取り組んでいる思いが「愛道」を通して読む方にも伝える方にも、相互に表されていると思っています。

これからの世の中、社会の変遷と共に、私たちの生活環境も変わって来ることでしょう。しかし倫理と道徳の心を大事にして〝大変住みよい地域で良かったね〟と思える、社会実現のために、まい進します。「愛道」のご愛読とご理解ご協力を末永くよろしくお願いいたします。

「愛道」100号記念座談会

滝波博純理事長と歴代の足羽福祉会広報委員七名が集まり、座談会を開催しました。苦労話や思い出話だけでなく、これからの「愛道」についても語っていただきました。

司会　高村昌裕（法人本部）

高村昌裕　事務局長

「愛道」に携わった時の感想をお聞かせください。

滝波博純　理事長（法人本部）

滝波博純　理事長

「愛道」の前身は「学園便り」（足羽学園）がスタートでした。昭和五十四年に法人の機関誌となりました。振り返ると足羽福祉会の歴史でもあり、社会の歴史でもあります。「共に生き、共に集う、光を求めて」の理念は、昭和五十五年の十五周年に制定されました。現在も理念の一つとして継承していますが、今は救済を意味する「光」ではなく「みんなの目標」として取り組んでいます。

岩本昌雄　苑長（足羽利生苑）　私は「愛道」創刊号から携わり、当初は経験もなく不安でした。味のある内容にするため原稿に絵を入れ、レイアウトの工夫をしたのを覚えています。あれから三十年もたったのですね。

矢納ともえ　園長（足羽東保育園）

私は昭和五十四年から「愛道」に携わってきました。足羽利生苑が平成三年に完成し「赤ちゃんからお年寄りまで」という総合福祉施設として盛り上がりを強く感じてきました。

理事長　その頃は「とばせ愛の風船」などのチャリティーもあり、遠方の方から「手紙を拾った」という励ましの便りもいただきました。チャリティーバザーも足羽福祉会が先駆けて行っていました。

林好美　課長（愛全園）　昭和六十二年に担当し、この頃から、手書きからワープロで原稿を作成するようになりました。でも、その時はまだワープロが打てなくて…。

北和史　課長（足羽学園）

北和史　課長（足羽学園）

昭和六十二年から十年ぐらい広報に携わり、表紙を変えようと努力し、一枚の写真にしたのを覚えていますね。（今の表紙の原型になっています）

平澤明　副主任（足羽ワークセンター）

平成二年頃から十年近く「愛道」に携わり、二十五周年号の全般を担当しました。ついつい今でも、後輩の機関誌作りには口を出してしまいたくなりますね（笑）。

中村隆海（足羽更生園）　私は、平成十三年ごろ携わりましたが、高村利雄元理事長が亡くなった時に「理事長を偲んで」追悼号を作りました。その時期に、ある記事を作成しましたが、ボツになったのを覚えています。トホホ。

「愛道」制作で、苦労した話や、楽しかった話をお聞かせください。

岩本　とにかく夢中で、今のようなグループ作業ではなく一人でやっていました。その時は、苦労と思わなかったです。

矢納　書いて、切って、貼っての連続でした。今でも手で書いたものは、はっきり覚えていますね。みんなで、よく福祉の未来を熱く語り合いました。楽しかったですよ（笑）。

林

林好美　課長（愛全園）

その頃は福祉に関心の薄い時代であり、例えば、排泄に関すること、認知症のこと等も積極的に記事にしました。

作業は手作業中心で、とにかく時間がかかり、新聞社で編集の仕事をしている夫によくアドバイスしてもらいながら作成しました。でも、今ほど仕事が厳しくなく、ゆとりがありましたね。

北　制作現場は、各施設担当が集まり、情報交換の場になっていました。集まるのが楽しみでした。「愛道」は、外部に出るものなのでプレッシャーもありましたよ。

矢納

矢納ともえ 園長（足羽東保育園）

「北編集長」のときは厳しかった（笑）。

中村　そうです、北さんは厳しかったなあ（笑）。私の頃からパソコンでの作業となり、とにかく締切日に間に合わせることに一生懸命で、夜中までかかりましたよ。

平澤　私の頃は記事的にも新しさに欠けることもあり、なんとか変えようと取り組みましたよ。夜遅くまで作業して、出来上がったときは、本当にうれしかった（涙）。今でも記事の内容は覚えていますよ。「愛道」の発行は年六回の時もありましたよ（現在は年三回）。

澤村学（愛全園）　毎号の「テーマ」を決める企画会議は、自分の書きやすい「テーマ」が選ばれるかドキドキして楽しいですね。

理事長　平成十四年に二色刷りが実現するまで準備や費用の面で時間がかかりました。毎号テーマを設定して内容作りをするようになったのもこの頃からでした。

長い「愛道」の歴史の中で、記憶に残っている記事はありますか。

北　認知症の記事が思い出深いですね。二十九号（昭和六十年）で認知症の方の苦しみや家族の思いを、わかりやすく伝えました。

林　三十八号（昭和六十三年）の在宅利用の方が立山に登られた時の記事が、思い出にあります。ボランティアの方が車椅子をかついで登った時の大変な様子や、職員が利用者様に励まされた言葉を記事にしました。

矢納　四十九号（平成四年）の「愛道」…保育についての問題…「現代っ子は幸せか？」に対するおじいちゃん、おばあちゃんのアンケート、九十七号（平成二十年）…障害児と母、その周りを取り巻く環境…この記事は、外部の方からも良かったという評価をいただき、とても嬉しかったです。

平澤　全ての記事が頭に残っています。特に、五十三号（平成五年）の元理事長が八十歳を迎えられた時、緊張しながらインタビューをしたことが印象に残っています。昔の記事を読むと、理事長欄の記事で十年、二十年先読みをしているような記事があり「法律は変われど、利用者様との関わり方の基本は変わらない」ことを述べておられ、びっくりしました。

澤村　一番、記憶に残っているものは七十五号（平成十三年）の…インフォームドコンセント（相手の人への説明と同意）の記事で生活相談員として、病院で過ごすのか、施設で過ごすのか、家族の思い、職員としての説明責任は果たしているのか、重いテーマでした。

中村

中村隆海（足羽更生園）

初めて褒めてもらった記事かな。七十九号（平成十四年）でした。締切が迫り、迷って書いた記事ですが、実はその記事、夜勤明けの眠い頭で書いたものでした（笑）。

理事長　通して読み返してみると、たくさんのご家族・ボランティア・地域の方々の思いやご意見が掲載されています。「愛のささえ」も含め、本当に多くの方々のささえによって足羽福祉会がここまでこられたことを実感し、感謝の念で胸がいっぱいになります。

これからの「愛道」に期待することをお聞かせください。

岩本

岩本昌雄 苑長（足羽利生苑）

やはり機関誌として、より重要なものになっている。施設、地域の情報を盛り込んで、発信していくことが大事。本当に見たい！と思うファンを掴（つか）めるものを作ってほしい。

矢納　「愛道」は、常に時代を先取りしており、諸先輩の教えが詰まっている。何年経っても、ぬくもりがある、温かい「愛道」であってほしい。

林　機関誌として百号まできたことは素晴らしいこと。これからも「愛道」の原点を守り続けてほしい。

北　企画は大変ですね。機関誌として幅広く、一般の人にも伝わる、温かみのある、わかりやすい機関誌であることを願っています。

平澤

平澤明 副主任（足羽ワークセンター）

「愛道」を読むことで、子どものこと、認知症の親のことなど、私も年齢に応じて興味のある記事が変わってきました。どの内容もすばらしく、更に中身で勝負できる機関誌を目指していただきたい。

中村　内容は、どこにも負けていないので自信を持ち、時々は、一息抜けるような話もあってもいいですよ。

澤村

澤村学（愛全園）

百号からカラー化され全体のスタイルが変わります。読者も多様化しているので、少しでも福祉に関心を持ってもらえる記事を書いていきたいです。

理事長　今は、インターネットの時代ですが、ネットにはない気持ちを伝えるものとして機関誌は不可欠です。読む人たちのことを考え、地域の機関誌として、発信し、地域からの意見もくみ取れる、双方向性のある機関誌であり続けたいですね。

「愛道」に対するいろいろな思いを語っていただき、ありがとうございました。

「愛道」と足羽福祉会の歩み

「愛道」は昭和五十四年七月一日に記念すべき第一号が発刊されました。それ以前にも足羽福祉会の各施設に機関誌は存在していましたが、愛全園の開設を機に編集委員会が設置され、足羽福祉会の機関誌として誕生しました。

今回は「愛道」足かけ三十年の歩みを足羽福祉会の歴史と共に振り返りたいと思います。

「愛道」の歩み

●**昭和54年**
第一号発刊・B5判で全八ページ構成。しかし第二号より全十二ページの構成に。

その後、第十二号までの表紙は、当時の理事長の原稿で飾られていた。

●**昭和57年**
第十四号・表紙を飾るイラストも手書き。

●**昭和58年**
第五回福井県ミニコミ紙コンクール最優秀賞受賞

●**平成5年**
福井県社会福祉協議会主催第四回福井県福祉広報紙コンクール施設団体グループの部優秀賞受賞

●**平成8年**
全国施設便りコンクール佳作受賞

●**平成9年**
第六十五号・初のA4判

●**平成14年**
第七十八号・二色刷り開始
色網掛けが効果的に使われ、さらに見やすく読みやすいものへ。

足羽福祉会の歩み

●**昭和41年**
財団法人 北陸陽気園設立認可

●**昭和42年**
財団法人 足羽学園に名称変更

●**昭和43年**
社会福祉法人 足羽学園設立認可

●**昭和48年**
社会福祉法人 足羽福祉会に名称変更

●**昭和49年**
足羽東保育園設置認可

●**平成3年**
特別養護老人ホーム
足羽利生苑設置認可
足羽利生苑デイサービスセンター
併設認可

●**平成4年**
足羽学園・足羽更生園・
足羽ワークセンター
短期入所事業認可

●**平成5年**
足羽ワークセンター
知的障害者地域生活援助事業認可

●**平成11年**
愛全園・足羽利生苑
居宅介護支援センター設置

歴代「愛道」からの記事

こんなエピソード知っていますか？知っている方は足羽福祉会通、それとも…？

●**昭和54年　第一号より**
「足羽福祉会シンボルマーク」の由来

当事の総合企画室長豊永氏のデザインで
「足羽」
←
「あしわ」
←
「A」「4」「輪」
四つのAが輪を作り、その中に福祉会の「福」をとり入れたものです。

●昭和60年
第七回福井県ミニコミ紙コンクール最優秀賞受賞

●昭和62年
第三十五号・足羽ワークセンター開所。在宅障害者の方の勤労体験学習の場としても地域に期待されている。

●平成元年
第四十一号・平成最初の発刊

●平成3年
福井県社会福祉協議会主催第二回福井県福祉広報紙コンクール施設団体グループの部最優秀賞受賞

●平成4年
福井県社会福祉協議会主催第三回福井県福祉広報紙コンクール施設団体グループの部最優秀賞受賞
第五十号発刊・五十号記念の特集ページには「百号に向かって新たにスタート」と書かれていた。

●平成18年
第九十号・カラー化に向けて編集委員たちの更なる技術の向上が求められる。

「愛道」では、福祉に関する制度や大きなニュースも取り上げてきた。

●平成21年9月
第百号発刊（今号）

●昭和52年
知的障害者更生施設
足羽更生園併設認可

●昭和54年
特別養護老人ホーム　愛全園設置認可

●昭和55年
愛全園デイサービスセンター認可

●昭和62年
知的障害者授産施設
足羽ワークセンター設置認可

●平成2年
愛全園在宅介護支援センター設置

●平成13年
足羽ワークセンター分場
「あおぞら」設置

●平成16年
足羽ワークセンター分場
「かがやき」設置

●平成19年
足羽利生苑認知症専用型デイサービスセンター「きらく楽」設置認可
足羽福祉会職員研修センター開設

●平成20年
障害福祉サービス事業・地域生活支援事業　足羽ワークセンター第一事業所および第二事業所足羽サポートセンター設置

●平成21年
障害福祉サービス事業・障害者支援施設足羽更生園設置

●昭和55年　第七号より
足羽福祉会創立十五周年式典挙行される。

足羽福祉会創立十五周年を記念してつくられた湯呑みには、記念行事のテーマ「共に生き、共に集う、光を求めて」が書き込まれていた。

そうです、現在も足羽福祉会が継承している理念の一部であります。

歴代の「愛道」には足羽福祉会の歴史そのものが記されています。

今後も「共に生き、共に集う、光を求めて」地域に開かれた、地域に信頼される足羽福祉会を目指し、ますます「愛道」の発展に努めます。

各施設長ごあいさつ

～機関誌「愛道」百号によせて～

足羽東保育園
園長　矢納　ともえ

「愛道」創刊時に足羽東保育園に入園した子どもたちも三十歳になっています。現在、当園には百名近い園児がいますが、その保護者の四割程が卒園された方々です。卒園児が保護者になり、その子どもがまた保育園に入り、保育園を拠点に家族や地域がつくられていくことは大きな喜びです。

百号までの月日の間に、少子高齢化など、子どもや親を取り巻く環境は大きく変わりましたが、当園では『自然保育、ふれあい保育、縦割り保育、食育、運動あそび』など、保育の柱を変えずに取り組んできました。

今一度、これまでの「愛道」を開いてみると、そこには生き生きとした子どもの姿があり、当園の保育方針は、子どもの心が豊かに育つものであると改めて確信しました。

「愛道」は愛の道筋。百号までのいろいろな方のつながりを大切に、今後も人のぬくもりをお伝えしていきます。

足羽学園・足羽更生園
園長　渡辺　隆

私が足羽福祉会にお世話になり、早いもので四年目を迎えました。張りつめた状態で仕事をしていることが多い中で「愛道」を読むときは、ホッとします。毎号、仲間の各施設の工夫された紹介記事や最新のニュース情報を楽しく読んでいます。

百号発行にあたり、三十年にわたる歴代の編集者や、誌面の充実のために心血を注いで、ご努力された方々に深く敬意を表します。

「愛道」は、足羽福祉会の理念にある、地域に開かれた、地域に信頼される施設の在り方、生きざまを、発信しています。

継続は力と言います。百五十号、二百号を目指して、私も微力ながらお手伝いできればと思っています。これからも、地域の人々と足羽福祉会の共生のかけ橋として、ますますその誌面が充実、発展していくことを祈念します。

足羽ワークセンター
所長　大舘　嘉昭

足羽ワークセンターが昭和六十二年に開設して二十二年が経ちました。長い「愛道」の歴史の中に、ワークセンターの歴史も刻まれているのを実感し感慨深いものがあります。

刻々と変化する「愛道」の歴史とともに、ワークセンターの歴史も変化してきました。

措置の時代から障害者自立支援法になり、四十名を超える方々が就職され、利用者の方全員がグループホーム・ケアホームにて生活されています。歴史の歩みとともに、利用者の方々、ご家族の方々の環境も変化していることでしょう。しかし、環境が変わっても、私たちは利用者の方が安心して生活していただけるように、日々努力を重ね、支援していこうと考えております。

「共に生き、共に集う、光を求めて」を継承して。

愛全園
園長　滝波　正興

「愛道」創刊百号の節目を迎え、改めて足羽福祉会の四十三年の歴史と、現在に至るまでの諸先輩方のご苦労・ご努力を感じております。私自身、身の引き締まる想いです。

人と人とのふれあいの中での温かさ、人の想いの温かさは、私たちが福祉に携わる者として何よりも大切にしていきたいことです。「愛道」を読むたびに、その想いを新たにすることができます。本当に感謝しております。

最後になりましたが、今まで「愛道」の発刊に携わった委員の方、利用者の方、地域やボランティアの方々に深く御礼申し上げますと共に、今後とも百五十号・二百号の発刊に向けてご協力頂きますようお願い申し上げます。

足羽利生苑
苑長　岩本　昌雄

足羽学園「学園便り」の創刊から三十四年の時を経て、「愛道」百号が発刊されました。この「愛道」を通して、支援や集いの輪の広がりに大きな成果を出しています。その一方で、編集担当職員には言い尽くせないご苦労もあったことでしょう。

これからの「愛道」は『希望に向かって』の新たな一歩でもあります。読者（関係者）の皆さんと誌面を通してふれあい、足羽福祉会の成長発展と共にある機関誌「愛道」として、多くのファンに愛されることを祈願します。私も足羽福祉会の一人として責任を果たしていきたいと思います。

平成20年度社会福祉法人足羽福祉会の財務諸表を公開します。

平成21年5月23日開催の理事会・評議員会に承認されたものを簡略化した内容となっております。

貸 借 対 照 表 （平成21年3月31日現在）

科 目	金 額（千円）	科 目	金 額（千円）
資 産 の 部		負 債 の 部	
流動資産	826, 540	流動負債	144, 059
固定資産	2, 188, 678	固定負債	107, 015
基本財産	1, 483, 300	負債の部合計	251, 074
その他固定資産	705, 378	純 資 産 の 部	
		基本金	155, 158
		国庫補助金等特別積立金	824, 224
		その他の積立金	426, 133
		次期繰越活動収支差額	1, 358, 629
		（うち当期活動収支差額）	128, 602
		純資産の部合計	2, 764, 144
資産の部合計	3, 015, 218	負債及び純資産の部合計	3, 015, 218

脚注　減価償却費の累計額　1, 587, 644（千円）
　　徴収不能引当金の額　761（千円）

注）尚、流動負債には賞与引当金 90, 885千円 が含まれています。

事 業 活 動 収 支 計 算 書

自平成20年4月1日　至平成21年3月31日

科 目	金 額（千円）
就労支援事業収入	40, 050
就労支援事業支出	30, 498
就労支援事業活動収支差額	9, 552
事業活動収入	1, 780, 192
事業活動支出	1, 666, 920
事業活動収支差額	113, 272
事業活動外収入	56, 252
事業活動外支出	54, 517
事業活動外収支差額	1, 735
経常収入差額	124, 559
特別収入	45, 186
特別支出	41, 143
特別収支差額	4, 043
当期活動収支差額	128, 602
前期末繰越活動収支差額	1, 174, 538
当期末繰越活動収支差額	1, 303, 140
その他の積立金取崩額	61, 489
その他の積立金積立額	6, 000
次期繰越活動収支差額	1, 358, 629

資 金 収 支 計 算 書

自平成20年4月1日　至平成21年3月31日

科 目	金 額（千円）
就労支援事業収入	40, 050
就労支援事業支出	30, 498
就労支援事業活動資金収支	9, 552
経常収入	1, 593, 546
経常支出	1, 406, 299
経常活動資金収支差額	187, 247
施設整備等収入	42, 538
施設整備等支出	129, 889
施設整備等資金収支差額	△87, 351
財務活動収入	61, 489
財務活動支出	18, 294
財務活動資金収支差額	43, 195
当期資金収支差額計	152, 643
前期末支払資金残高	620, 722
当期末支払資金残高	773, 365

自慢の作品大集合

足羽利生苑デイサービス
【富士山】

この作品は、ビニールテープで作られています。とても大きな作品となりました。

足羽東保育園
【みんなの町とみんなの家】

山の部分には、実際に子どもたちが摘んできた草花が貼られています。

足羽ワークセンター
【生け花】

生け花クラブの方々がご自分で花を選択され、丁寧に作られました。

愛全園デイサービス
【ひまわり】

よーく見てみると、太陽とひまわりは、ペットボトルのふたを貼り付けて作られています。

足羽更生園
【夏の海】

魚や海、海藻はすべてちぎり絵にて作成されています。地道な努力によって海の華やかさが表現されています。

足羽学園
【てるてる坊主と傘】【雨とアマガエル】

カエルの表情はそれぞれ個性があり、思い思いに描かれています。

優しく感性豊かに

～自然保育から見える子どもの姿～

自然は、五感をフル回転させ、夢中で遊ぶことのできる魅力的な環境です。今回は、保育士の日記から、自然の中で生き生き輝いて遊ぶ子どもの姿と、保育士の思いを紹介します。

日常の何気ないことでも、子どもの興味はさまざま。一人ひとりの発見や思い、心の動きを見逃していないか、いつも子どもの心に寄り添い共感していきたい。

7月15日

ホースで園庭に水をまいているときのこと。Aちゃんが水のトンネルの上を跳びながら「ワー」と歓声をあげた。他の子も次々に集まってきて一緒に跳び出す。その様子を見つめていたBちゃん。突然、太陽の反射でできた小さな虹に「あっ虹！きれい」と叫んでいる。Cちゃんは、水の蛇作りに挑戦している。

8月6日

朝から気持ちが落ち着かずイライラしていたDちゃん。どろんこ広場で体中に泥をぬりたくり、遊んでいるうちに、だんだん表情が柔らかくなってきた。最後は、みんなで泥をこねたり、全身泥だらけになって笑いあっている。

泥遊びを楽しむ子どもたち

泥には不思議な力がある。身も心も満たし、気持ちを解放してくれる。子どもにとっての『土』をもう一度考えたい。また、保育士も子どもの心を温かく癒せる存在でありたい。

8月12日

砂場に穴を掘り、池を作っているお兄さん達を見たEちゃん。「僕も」と、コップで何度も水を入れるが、砂がすぐに水を吸い「水たまらん」と悲しそう。しばらくお兄さんの様子をじっと見ていた後、コップの代わりにバケツで水を入れ始めた。みるみるうちに水がたまり「池できた」と達成感と満足いっぱいの顔。

コップよりバケツの方が、たくさんの水を運べることに気付いたEちゃん。子どもは自分で考える力を持っている。

すぐに口を出そうとした自分にヒヤッとした。困っているときこそ、子どもがどう動き出すか、じっと見守ることが大切だと実感する。

8月19日

花にとまったチョウを見つけ、息を潜めながら近づき、やっと捕まえたFちゃん。

「やった！」と大喜び。逃げないようにぎゅっと羽を握り、籠に入れようと手を広げると羽が破れている。驚いて手を離すが飛べない。動かなくなったチョウをじっと見て「逃がしてやろう」と、そっと花にとまらせていた。次の日、チョウは見当たらず「どこへ行ったの。生きているかな？」と不安そう。

チョウを自分で捕まえた喜び、羽が破れ飛べなくなった驚き、チョウがいなくなった不安など、生き物との出会いから、かかわり方や、命の尊さを学んだ貴重な体験だった。

自然は子どもの心を揺さぶり「不思議だ、なぜ、どうして？」と、一生懸命考えさせられ、解決しようとする力を生み出します。また、自然の中での様々な体験は、困難なことにぶつかっても自分で乗り越えようとする「生きる力」の基礎につながっていきます。

今後も自然保育を柱とし、子どもたちの心と体を豊かに育めるよう、温かく見守りながら保育を進めていきます。

足羽東保育園
主任　國枝　洋子

成長は光
～食事支援の取り組みから～

今回は健康維持と子どもの発達には欠かせない「食事」に関する支援から見える成長をお伝えします。

「食事」の大切さ

一言で「食事」と言ってもその中には、健康維持・管理はもちろん、食事を通しての他者とのコミュニケーション・マナー・感謝の心・道具を的確に使う力・選択する力、などなど成長への幾つもの鍵が隠されています。

取り組み

食事に関する記録

利用者の方の食事に関する記録（食事量・箸の持ち方・好き嫌いの状態・食事中の行動など）を取り、個人の成長に合わせた支援を行っています。

Kさんの事例

Kさんは好き嫌いが激しく、落ち着いて食事を取ることができなかった方で、すべての面に対して支援を拒み、イライラから他人に当たってしまうような行動が目立っていました。

そこで、好き嫌いを克服し空腹からのイライラを無くそうと考えました。食事時間は職員が隣に座り、マンツーマンで食事の介助を行い、Kさんの好きなメニューを励みに苦手なメニューを少しずつ食べてもらうようにしました。

取り組み始めたころは、苦手なものが口の近くに来ると顔を背け「ワー」と泣くこともありました。

苦手なものを細かく刻み、少しでも早く飲み込めるようにしました。苦手なものを食べることができたら、大いに褒めました。使いづらい箸を、しつけ箸（※1）にしました。

長期の支援の結果、次第に食事の量も増え、それに伴い栄養のバランスも取れるようになりました。また、食事量が増えたことで、空腹によるイライラが減り、落ち着いた生活が送れるようになりました。

しつけ箸を使い、苦手なものを食べるKさん。

情緒的に落ち着きがでてきたことにより、職員の声かけにも応じることが増え、食事以外の生活面にも成長が見られるようになりました。

「選択食」（※2）

足羽学園・足羽更生園では週に一回の選択食を行っています。

普段は出された食事を食べている利用者の方にとって、食べたいものを選択するという行為は、思いのほか難しく、支援を始めた当初は、選択することの意味を理解することが困難な様子でした。

約十年間継続している現在では、三種類のメニューから自分の希望の物を選ぶことでそれが出てくることを理解し、スムーズな選択ができています。

これにより、利用者の方が自分の気持ちを相手に伝え、理解してもらうための「自己決定」に大きく役立っています。また、食事をすることが楽しい、待ち遠しいという感じがうかがえています。

食事場面に限らず、様々な場面で選択するという行為は成長や生活の幅を広げることにつながっているのです。

食事中の利用者の方の表情は、本当に幸せそうで、満面の笑みを浮かべています。その様子を見ているだけで、こちらまで幸せな気分になるくらいです。

私たち職員は「食事」の大切さを忘れずに、食事を通して利用者の方の大きな成長につなげたいと思います。一人ひとりが輝きながら生活できるように。

（※1）しつけ箸＝箸が苦手な子どもも使いやすく、正しい持ち方に矯正してくれる道具（市販のもの）

（※2）選択食＝主食やデザートを三種類用意し、会話のみでの選択・写真での視覚情報からの選択・実物を見ながらの選択と個々の利用者の方の能力に合わせた方法で希望の食事を選んでもらいます。

太陽のもとで輝く笑顔

足羽学園・足羽更生園では、毎年恒例行事の夏祭りが八月に行われます。夏祭りには、利用者の方・ご家族・地域・ボランティアの方・職員家族を含め多くの方が参加する一大イベントです。

こんなに早くから

夏祭りは八月ですが、四月の春先からお祭りを楽しみにしている利用者の方がいます。

春のあたたかさを感じると「盆踊り」と言って盆踊りのリズムを口ずさみニコニコされています。また、お祭りに関する言葉を聞くとすっかりその気になってしまい、明日にでもお祭りがあるかのような気分になってしまうほど楽しみにしています。

お祭りまで

夏祭りでは、ヨーヨー釣りや焼き鳥・かき氷の販売など多くの出店を開きます。そのため係りの職員が二ヶ月以上前からチケットの作成・資材の準備に奔走しています。

利用者の方が着る着物の準備をしていると、いよいよ夏が来たことを感じ、祭りを楽しむ利用者の方の笑顔が頭をよぎります。

前日になると園内の中庭にやぐらを組み、色とりどりの提灯（ちょうちん）を頭上に張り巡らせ、明日は晴れることを祈るだけです。

さぁ～祭りがはじまるぞ

当日は、みんな浴衣（ゆかた）や半被（はっぴ）を着て祭りを盛り上げます。この日を楽しみにしていた利用者の方は、祭りが始まるとご家族やボランティアの方の手を引いてさっそくお目当ての出店に向かっていきます。一番人気の焼き鳥屋では長い行列ができ、早く食べたいなという顔が多く見られます。また、ゲームの景品やヨーヨー釣りがうまくできると職員にも「こんなの貰ったよ」と笑顔で見せにきてくれます。

夏の暑い日ですが、みんな暑さを忘れているかのように元気いっぱいに会場を回っています。

さぁ～盆踊りがはじまるぞ

また、踊りの催しが始まると率先して会場の中央で踊りを披露してくれる方、テントの日陰で踊りを見て楽しんでいる方など、いろんな笑顔があふれています。

分け合う笑顔

慣れないボランティアの方が緊張していると利用者の方から「あっち行こう」「ここにこんなのあるよ」など積極的に話をされることも多くあります。そんな利用者の方の何気ない言葉にボランティアの方も次第に緊張がほぐれ、自然と打ち解けていきます。

そのうち、友だちのように手をつなぎ、出店をまわり食べ物を買ったり、ヨーヨー釣りをしたり、盆踊りを一緒にしたり、とても仲良くなります。

夏祭りをはじめ、いろいろなことでご家族・地域・ボランティアの方のご支援を承っています。

足羽福祉会の理念の一文にある「共に集う、光を求めて」の言葉のように皆様と歩んでいきたいです。

内容については、平成二十年を基に構成されています。

光輝くまで

足羽ワークセンターは知的障害のある方の就労を支援しています。
今回は新たに就職を目指しているHさんと、一般就労して五ヶ月が過ぎた
Kさんの頑張っている様子を紹介します。

就職への道

現在、足羽ワークセンター第2事業所足羽サポートセンターを利用されているHさんは、就職を目指して企業内で実習をされています。一般的な就職の流れは、実習から仮雇用、最終的に雇用という流れになります。七月の時点でHさんは仮雇用の段階まで進んでいます。

実習開始前からHさんは作業能力も高く、人一倍熱心に取り組んでいる様子も多く見られました。

そして、実習が始まって就職に対する気持ちは一層強くなり、自分で意識的に変化をしようとする姿勢も見られました。現在Hさんは就職に向けてまっすぐに進んでいる最中です。

ここでHさんにジョブコーチ（第一号職場適応援助者）として支援に入っている職員に話を聞きました。

実習中のHさん

Hさんにとって、全く未経験の職種で右も左も分からない状態でのスタートでした。しかし、就職に対する思いが強く、作業能力も高いHさんは、多種多様の作業を覚えていきました。普段の生活からも、言葉遣いや、整理整頓といったことを積み重ね行い、先を見据えた行動ができていると感じています。

彼の夢である就職してから親孝行をするという目標まであと一歩のところまで来ています。

ジョブコーチ　木下晋一

光輝くもの

Kさんは素直な性格の持ち主で現在働いている職場でとても頑張っています。平成二十一年四月一日から就労され、早くも五ヶ月が過ぎました。

Kさんが今、どのように頑張り、成長をしているかを紹介します。

最初は職場でも緊張してしまい、うまく話すことができませんでしたが、今では自分の考えも伝えながら仕事ができています。彼の良いところは素直に話を聞き、周りの人たちとコミュニケーションをとりながら仕事をする所だと感じています。職場の方からの指示も素直に受け止め「はい！分かりました！」と大きな声で返事をし、一つひとつの話をしっかりと聞いています。それが彼自身の中でも仕事を覚えるのに役に立ったのではないのでしょうか。今ではその性格のおかげで、職場での信頼も厚く、若手のホープとして期待されています。実習に入る前はどうなるか心配でしたが、今では安心して見守ることができます。

ジョブコーチ　橋本裕樹

久しぶりの再会の二人（左/橋本さん、右/Kさん）

今回紹介した二名の方は、それぞれの職場で一生懸命に働いています。その頑張っている姿は、見た方の心に輝きを与えてくれるものと感じています。その輝く姿が新たな光となり、就労を目指している他の利用者の方を導いてくれることと期待しています。

私、老人ホームやで。

～Aさんの獲得～

愛全園には九十名の方が生活されています。
今回は、職員と利用者Aさんを通して「認知症」について考えたいと思います。

藤原さんがAさんと出会ったのは一年半前のことです。実は藤原さん、平成九年から足羽ワークセンターで長年勤務され、平成二十年四月に異動となって愛全園に来ました。障害者福祉から老人福祉への転身に戸惑いの毎日だったと言います。愛全園には九十名の方々が入所されていますが、中でもAさんの印象は特に強かったそうです。それは次のようなエピソードを聞いたからでした。

【ケーキを食べ終えて】

A　老人ホーム預けたけど…息子のことやら話してる間に老人ホーム持って行ったんや。

職　…。

A　ケーキをもろたんや。老人ホームももろたんや。だいぶいつけぇの。一体、誰が持って行ったんや。

職　お皿？かなぁ…いっぺん探してみます。

A　そんなにたいしたもんでもないけど。

※A…Aさん　職…職員

愛全園の仕事も一通り覚えたころ、Aさんの担当となりました。Aさんにとって「老人ホーム」には、何か特別な意味や思い入れのようなものがあるのだろうか？藤原さんは疑問を抱きながら情報収集を開始しました。すると「老人ホーム」にまつわるエピソードはたくさん存在しました。

【洗面所にて】

A　私の老人ホーム短くしての（髪を触っている）。

職　ひょっとして髪を短くしたいんですか？

A　だいぶ伸びたでの。

読者の皆様は、これら二つのやりとりを見て、どう感じるでしょうか？

藤原さんは、Aさんのご家族に話を伺いました。ご家族は、元気だった頃の生活、性格や仕事ぶり、介護が必要になり始めた頃からのお話を、時間をかけて丁寧に話してくれました。

入所される直前、認知症が進行していった時期には『あんなにしっかりしていたのに…すべてが壊れていってしまうようだ』と涙ながらに語ってくれたそうです。

ご家族の切実な胸の内を知り、藤原さんの心は大きく揺れました。これまで足羽福祉会で働いてきた自分の姿勢を問い直し、あらためてAさんのことを考えてみようと。

藤原さんの考察

認知症にかかわらず、高齢になればうまくできないことが、どうしても増えてきます。そのことを平然と、静かに、ありのままに受け入れることができるでしょうか？

藤原さんは、自分にはできそうもないことに思えました。

伝えたい思いは今ここにある。イメージは浮かんでいるのです。でも、それを表す言葉が出てこない。それでも伝えたいとしたら…みなさんはどうされますか？あきらめてしまいますか？

【外を眺めながら】

職　ここは見晴らしがいいですね。

A　そうや。あれが老人ホーム、和田中（わだなか）やの。あれも老人ホーム。

職　私、◎◎さんの知り合いやでの。Aさんは何でもご存じなんですね。

A　そうや。私、老人ホームやで（笑顔）。

Aさんの会話の流れは自然です。逆に「老人ホーム」の言葉だけが不自然です。口をついて出てこない言葉すべてを「老人ホーム」と言っているのでは、と考えました。

ご家族の話によれば、Aさんはたくさんの人に土地を貸し、土地の管理ばかりか借りた方のお世話もされていたそうです。ですから、最後の「私、老人ホームやで」は「私、地主やで」と理解できました。他はマンションやビルの実在する建物です。

認知症と言うと、どんどん物事がわからなくなるイメージが強いかも知れません。ですが、Aさんはその中でもAさんならではの方法で、話す行為を獲得されていると藤原さんは思うのです。それは紛れもなくAさん、そしてご家族が教えてくれたことでした。

同じものに光をあてても、角度によって、生じるシルエットは大きく変わります。
幾つもの光で本当の姿を捉えたいものです。そこにはきっと、その人の生き方、そのものの光があると信じます。

いろいろな光

苑内の光

『ウィーン』という音と共に、足羽利生苑の正面玄関が開きました。今日もたくさんの利用者の方やご家族、業者の方などが来苑されています。

その人たちを温かく迎えてくれるのが、正面玄関に装飾されているディスプレイです。

これは、足羽福祉会本部の女性職員・梯（かけはし）さんが創作したものです。

季節感漂うディスプレイは、訪れる人すべてを楽しませてくれます。どれも、梯さんの明るく朗らかな人間性が表現されており、そのような要素も手伝って素敵なものが作り出せるのだと思います。

そして普段なかなか目につかないようなトイレにも、様々な工夫がみられます。

これをみると純粋な気持ちになり、笑顔で頑張ろうと奮起することができます。

このように、玄関だけでなく、苑内や居室のあちこちにも他の職員の手によっていろいろな光があふれ、苑内の雰囲気を明るく照らしています。

まだまだ紹介したいものはたくさんあります。来苑されたときは、ぜひ探してみてください。

苑外の光

苑外でもたくさんの光を見つけることができます。

それは施設の周りを彩るたくさんの花です。この花の苗は、今年六月に福井県で行われた全国植樹祭の植栽活動《花の植栽活動を行う県内の団体等に春花壇用の苗を抽選で提供するもの》に応募し、頂いたものです。

慣れた手つきですね♪

その頂いたビオラの苗などを、利用者の方と一緒にプランターに植えました。正面玄関前や、道路沿いの垣根に置き、苑はたくさんの光に彩られました。日差しの強い日でしたが『うまいことできたわ～』『きれいやのお』と、笑顔で話しながら手入れされている利用者の方にとても感心し、花から放つ光はより一層輝いて見えました。

普段何気なく見かける物や風景も、誰かの手が加わっていたり、温かい気配りがあってこそ存在するものです。慌ただしい日常の中で疲れや不安を感じたとき、ふと周りを見渡してみてください。たくさんの明るい光が私たちを励ましてくれますよ♪

みんなの広場

子どもの世界 ～言葉編～

子どもの会話を聞いていると、思わず『ふふっ』と笑ってしまうことがたくさんあります。じっくり耳を傾けてみてはいかがですか？

★髪型が変わった子に保育士が一言…

「どこで髪切ってきたの？」
「たこやさんだよー！」
床屋さんのこと？？

★金魚の水槽をじっと眺めて…

「シャボン玉してるみたい♪」
パクパクしてできた泡かな？

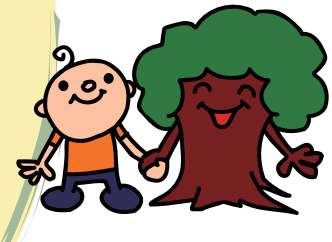
★給食に出たおかずを見て…

「めだまめ入ってる～」
えっ！めだま？
なぁんだ。えだまめのことね。

青春の記憶 ～男性選びの基準～

ウン十年前、女性たちの男性選びの基準になっていたのが、車でした。
当時の青年たちはド派手な改造車に乗って、女の子たちの気を引こうと必死でした。
車にエアコンが付き始めた時代でもあり、エアコンの無い青年たちは、真夏でも窓を閉め切って車を走らせ、あたかもエアコンが付いているかのように見せかけていました。
私もエアコンが付いている車だと思い込み付き合いだしてしまった一人ですが…
でも、それが私の夫です…。

足羽学園職員　H・Y



「愛道」を読んで

「愛道」を初めて読ませていただきました。九十九号のなかの「想いを大切に」という言葉に惹かれました。利用者の方にとって、よりよい介護計画・支援をしていくためには、ご家族やご本人とのかかわりが大切だと分かりました。様々な視点から本人の様子を観察し、必ずしも支援の方法は一つではないのだと思いました。

「想う」というのは簡単なようで難しく、相互の想いが行き来してこそ、より良い介護に繋がるのではないのかと思いました。私も「想い」を大切にしていこうと思います。今後も、ますます皆様がご活躍されることを願っております。

アイビー医療福祉専門学校
介護科　田中友理

ちょっと豆知識 買物でエコロジー

フード・マイレージという言葉をみなさんは知っていますか？
フード・マイレージとは、食料の輸入量と輸送距離をかけ合わせて数値化したものです。
大量の食糧を長距離輸送するには当然エネルギーがかかります。そのエネルギーの消費から排出された二酸化炭素の大きさを表す数値になります。
数値が大きいほど環境に与える負荷は大きいものになります。
ということは、輸送距離が短いほど二酸化炭素の排出量は小さくなりますね！
ちなみに、日本人一人あたりのフード・マイレージはアメリカの七倍もあるのです。

そこで、普段の買い物で注意して見て下さい。手にとった商品の産地は？
外国産それとも国産？国産でも、何県から来たのでしょう？そんなことを気にしながら買い物をすると地産地消に行きつくかもしれませんね！

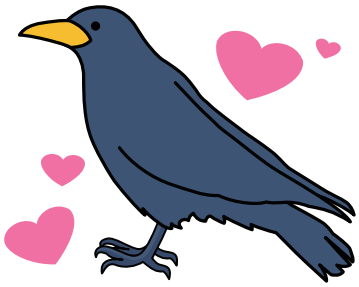
県議会食堂オープン

今年の六月より福井県議会の食堂に「県議会食堂あすわ」がオープンしました。郷土料理を中心にさまざまなメニューをご用意させていただいております。
皆様のご来店を心よりお待ちしております。

県議会食堂あすわ
【場所】 福井市大手３丁目17-1 議会議事堂中２階
【電話】 0776-20-0532
【営業時間】 11:30～13:30

おはよ～カラス♪

東藤島の林町、ショートステイのお迎えにあがったときのことです。
「おはよ～、おはよ～」
運転手が「おはようございます！」と即座に振り向いたのですが、そこには誰も…。
キョロキョロしていると利用者の家族の方が「カラスですよ」と教えてくれました。
カラスまでもがあいさつを交わす〝あったかいふるさと〟って、ちょっといいですよね。
あなたの町にもいるのかも？



愛全園ショートステイセンター